

第33回 静岡県母性衛生学会学術集会プログラム

メタデータ	言語: jpn 出版者: 静岡県母性衛生学会 公開日: 2023-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004297

静岡県母性衛生学会

第33回 学術集会プログラム

学術集会長 鈴木 一有（浜松医科大学産婦人科地域医療学講座）

日 時 11月28日（日）14:40～

会 場 もくせい会館 富士ホール

静岡県葵区鷹匠3-6-1
TEL:054-245-1595

* 学術集会当日、忘れずにご持参ください。

第33回 総会ならびに学術集会プログラム

受付開始時間	14：00～
総 会	14：40～
学 術 講 演	15：00～
教育講演	15：00～ “女性の将来を見据えたプレコンセプションケア” 聖隷健康サポートセンター <i>Shizuoka</i> 所長 鈴木美香先生
一般演題	16：00～
奨励賞授与	16：30～
閉 会	16：40（予定）

受付について

学術集会参加費 1,000円（学生は無料）
学術集会参加証明書交付（助産師・看護師対象）

演者へのお願い

1. 発表時間
一般演題 発表7分 質疑3分
2. 発表形式
PCはWindows、Powerpoint2010を使用します。Macでの発表はご遠慮ください。当日、USBメモリーでご持参ください。
発表30分前までに受付を済ませてください。

備 考

学 術 講 演 次 第

[教 育 講 演]

15:00～

座長 鈴木 一有先生

(浜松医科大学産婦人科地域医療学講座 特任准教授)

“女性の将来を見据えたプレコンセプションケア”

聖隷健康サポートセンター*Shizuoka* 所長 鈴木 美香先生

[一 般 演 題]

16:00～

座長 太田 尚子先生 (静岡県立大学看護学部学部長兼教授)

1. ピアエデュケーションを用いた助産学生による性教育の効果

静岡医療科学専門大学校助産学科

○鈴木恵, 加藤昌子

2. 帝王切開を体験した女性が抱くわだかまりの存在と関連要因—子どもが就学を迎える時の振り返り—

浜松医科大学大学院医学系研究科看護学専攻¹⁾ 浜松医科大学医学部看護学科²⁾

○成岡千恵子¹⁾, 安田孝子²⁾

教育講演要旨

“女性の将来を見据えたプレコンセプションケア”

聖隷健康サポートセンター *Shizuoka* 所長 鈴木 美香

プレコンセプションケアとは、将来の妊娠を考え、女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うこと・妊娠前のヘルスケアを意味する。プレコンセプションケアの歴史的背景は、2000年代に入り、妊産婦死亡率や新生児・乳児死亡率が劇的に改善する一方で、先天性異常や未熟性、母体合併症による新生児死亡率は減少していないとの意識が高まり、それらを解決するには、妊娠前から対応する必要があるとの考えが広まったとされ、2006年に米国で、2012年にWHOでプレコンセプションケアが提唱された。我が国でも2018年12月に成育基本法が公布され、子供・思春期・AYA世代に対する支援の確立、子宮頸がん・乳がんなど若年期に発症する女性のがんに対する知識・予防及び検診等の啓発の促進、周産期のメンタルヘルスケア、母子のメンタルヘルスの維持・愛着形成、そしてプレコンセプションケアの推進が盛り込まれた。

若い世代の現在から将来にわたる健康の向上のみならず、次世代の健康の保持および増進を図ることにつながるプレコンセプションケアの体制整備が望まれる中で、本講演では、広義のプレコンセプションケアとして、生殖可能年齢にあるすべての人々の身体的・心理的および社会的な健康の保持増進のために、現在どのようなことが問題となっており、なぜ今わが国においてプレコンセプションケアが必要なのか、女性の将来を見据えてどのような取り組みが必要なのかを考えていきたい。

一 般 演 題 要 旨

1. ピアエデュケーションを用いた助産学生による性教育の効果

静岡医療科学専門学校助産学科

○鈴木恵, 加藤昌子

【目的】

本校の助産学科の学生が、他学科の学生を対象にピアエデュケーションを用いた性教育を実施したため、その報告をする。

【方法】

助産学生7名が、2020年10月15日に他学科の学生22名を対象に、90分間の性教育を実施した。対象者の年齢は10代が18名、20代が2名であった。事前アンケートを実施し、ニーズを把握した後に企画書と計画書を作成した。今回の性教育の目標は、「正しい知識を身につけ、男女ともに主体的な避妊行動の方法が理解できる」「男女の関係性を適切に考え、妊娠、避妊、中絶、性感染症について理解できる」「性を自分の身近な問題としてとらえ、考えることができる」とし、劇やクイズ、グループワーク、実技を交えながら行った。

評価は授業後にアンケートを行い性教育の目標が達成できたかどうかを確認した。

【結果】

アンケート結果より、内容の理解度を確認する質問項目全てにおいて、「理解した」と回答した学生が22名(100%)であった。自由記載では、[劇があって分かりやすかった][身近なこととして感じた][避妊は必ずする][相手を思って関係を持つ]という記載があった。

【考察】

我が国が抱える性の問題点を解決する方法として、「健やか親子21(第2次)」の報告書の中でピアサポートの推進を掲げている。ピアサポートとは、同じ悩みを持つ同先輩がカウンセラーや教育者になることで、生徒と共感・共有しながら、フレンドリーな雰囲気の中で重要な情報や知識・価値観・スキル・行動を分かち合っていく、行動変容をもたらそうとする活動である。

今回の性教育において、助産学生がピアサポートすることで、フレンドリーな雰囲気の中で重要な情報や知識を伝えられディスカッションするができた。それにより、対象者は性の問題を身近に感じ、効果的な教育となった。

2. 帝王切開を体験した女性が抱くわだかまりの存在と関連要因

—子どもが就学を迎える時の振り返り—

浜松医科大学 大学院医学系研究科 看護学専攻

浜松医科大学 医学部 看護学科

○成岡 千恵子

安田 孝子

【目的】

本研究は、帝王切開後 5 年が経過した女性の出産体験に対するわだかまりの存在と出産の捉え方および子どもや子育てに対する思い、心的外傷後ストレス障害との関連を明らかにすることである。

【方法】

2019 年 12 月～2020 年 2 月に幼稚園または保育園の 5 歳児クラスの子をもつ母親のうち、帝王切開で出産した女性(目標数 256 名)に無記名自記式質問紙調査を行い、郵送法にて回収した。調査内容は、年齢や出産様式などの基本属性、わだかまりの有無と内容、帝王切開における出産体験のとらえ方尺度、愛着－養育バランス尺度、PTSD 評価尺度(Impact of Event Scale-Revised: IES-R)日本語版質問紙である。本研究は浜松医科大学臨床研究倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号 19-232)。

【結果】

139 名から回答を得、134 名(有効回答率:96.4%)を分析した。わだかまりが有る女性は 49 名(36.6%)であった。わだかまりの理由で最も多かった回答は「自然分娩への心残り」42 名(85.7%)、わだかまりの対処で最も多かった回答は「子育てで出産を肯定した」20 名(40.8%)であった。わだかまりの有無と各尺度については、わだかまり有り群は無い群と比較し、帝王切開における出産体験のとらえ方尺度、愛着－養育バランス尺度、IES-R のそれぞれに有意差が見られた。

【考察】

先行研究に比べわだかまりを抱く女性の割合が多かった要因は、帝王切開という分娩様式が関係していることが考えられた。また、わだかまりが高くなる要因は、医療介入による主体性の喪失や経膈分娩への心残りが考えられた。出産体験に対するわだかまりは、出産後 5 年経過しても心に残っている女性が約 4 割おり、出産体験を否定的に捉え、誰かに支えてほしいという思いを持っている傾向がみられるため、継続的な支援が必要であると考えられる。